

前回委員会における委員ご指摘に関する資料

農村振興局

- (1) 畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組
- (2) 後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析

平成 2 1 年 8 月 2 0 日

農林水産省

(1) 畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組

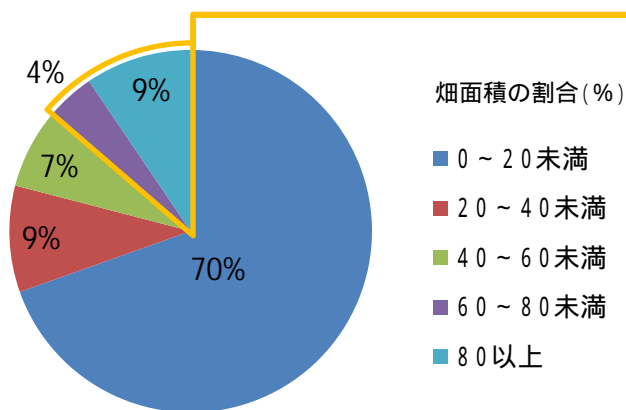
平成21年度において、国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)を実施している253地区のうち、地区内の受益面積に占める畑面積の割合が6割以上を占める地区を抽出(35地区)し、その傾向を分析した。

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組(1)

平成21年度における国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)の実施地区における受益面積の傾向をみると、地区内の受益面積に占める畑面積の割合が6割以上を占める地区は、全体の13%(本資料では、これらの地区を「畑地かんがい地区」として整理)。

畑地かんがい地区の水路形式は、パイプライン方式が太宗を占めており、水田かんがい地区と比較し、水辺空間の提供の機能は低いと考えられる。

平成21年度実施地区(253)における地区内の受益面積に占める畑面積の割合

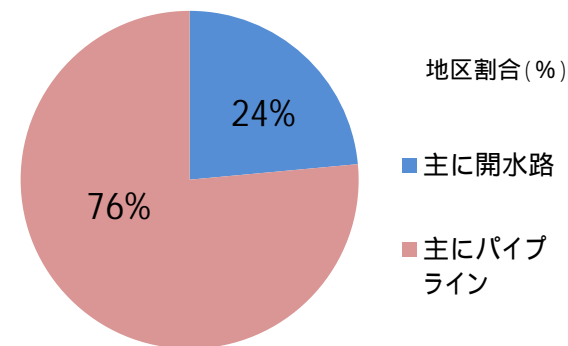


畑面積割合 (%)	地区数	地区割合 (%)
0 ~ 20未満	176	70%
20 ~ 40未満	24	9%
40 ~ 60未満	18	7%
60 ~ 80未満	11	4%
80以上	24	9%

ブロック別の畑地かんがい地区

ブロック	地区数
北海道	2
東北	3
関東	5
北陸	1
東海	0
近畿	2
中四国	7
九州	10
沖縄	5
合計	35

畑地かんがい地区における水路形式

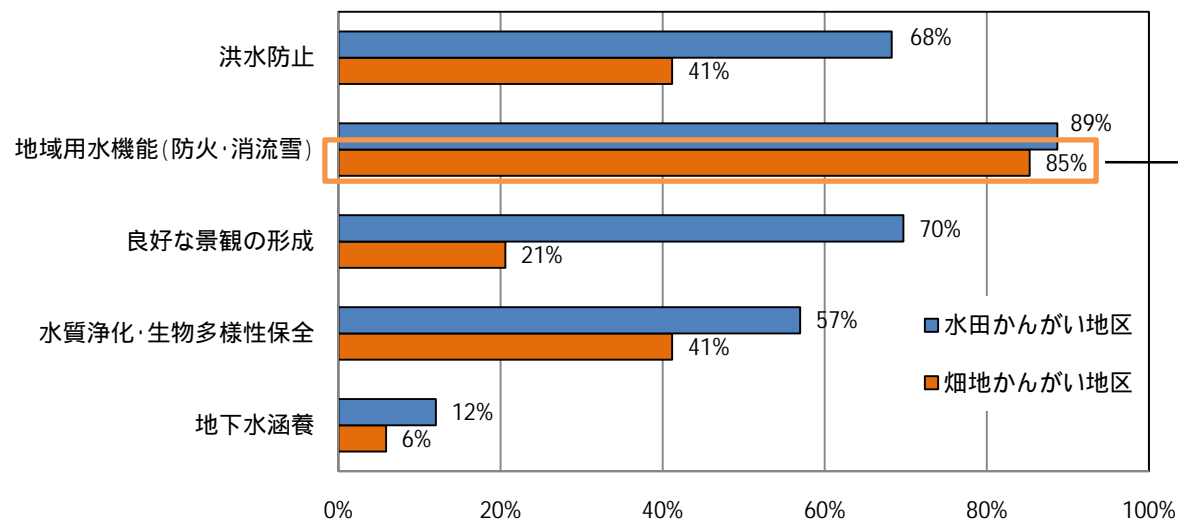


畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組(2)

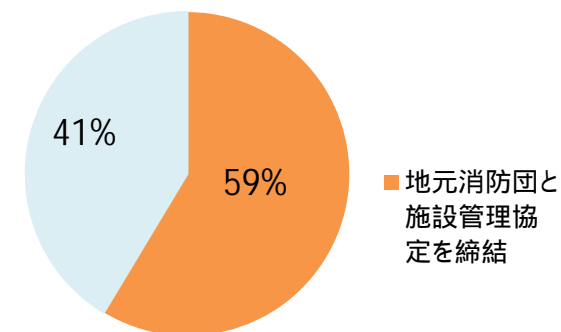
畑地かんがい地区における多面的機能の発揮については、水田かんがい地区(ここでは畑地かんがい地区以外の地区)との比較においてみれば、良好な景観の形成や地下水涵養といった機能の発揮が低い傾向となっているものの、一定程度の評価はあり、特に防火用水を含む地域用水機能ではほぼ同等の結果となった。

当該機能が発揮されたと回答した地区(29地区)のうち約6割(17地区)が地元の消防団と施設の管理協定を結び、管理活動を実施している。

本事業により発揮された多面的機能



防火用水機能の発揮に向けた取組



* 防火用水機能が発揮されたと回答した畑地かんがい地区29地区のうち17地区で地元の消防団と施設の管理協定を締結
資料：農村振興局水資源課施設保全管理室調べ(H21)

資料：農村振興局水資源課施設保全管理室調べ(H20)
253地区を対象にアンケート調査を実施

(注)ここでは、便宜上、受益面積に占める水田面積の割合が4割以上の地区を「水田かんがい地区」(218地区)、畑面積の割合が6割以上の地区を「畑地かんがい地区」(35地区)として整理。

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組(参考)

前頁のアンケート調査に係る補足調査の中で、畑地かんがい地区において具体的に取り組んでいる事例として回答のあった主な内容と、それを行う上での問題点は次のとおり。

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた主な取組事例

多面的機能	多面的機能の発揮に向けた主な取組事例
洪水防止機能	・ 地域住民等と協力し、排水路断面確保のための堆積土・雑木等の除去活動の実施 等
地域用水機能 (防火・消流雪)	・ 地元消防団と管理協定を結び農業用水を防火用水として利用。施設管理は消防団と役割分担を明確化 ・ 地域住民と協力し、防火用水機能が適切に発揮されるよう、施設の清掃活動・点検活動を実施 等
良好な景観形成	・ 地域住民等と協力し、景観を保全するための清掃活動の実施 等
水質浄化・生物多様性 保全	・ ファーム Pond 等からの放水を実施し、水路内の水質を浄化 ・ 地元住民と協力し、地区内の生物を保護するための学習活動や清掃活動を実施 等

取組を行う上での問題点

多面的機能	取組を行う上での問題点
洪水防止機能	・ 活動に係る労力及雑木等の処理費用の確保が困難
地域用水機能 (防火・消流雪)	・ 通水はかんがい期のみとなっており、非かんがい期には防火用水機能の発揮が困難 ・ 給水栓の位置図、標識の設置等に係る費用といった新たな負担が発生
良好な景観形成	・ 活動に係る労力及びごみ等の処理費用の確保が困難
水質浄化・生物多様性 保全	・ 放水のための巡回強化により土地改良区に対する負担が増加 ・ 期待が高まる環境へ配慮した施設整備への対応
全 般	・ 畑地かんがい地区はパイプライン形式が多く、水辺空間や施設が身近に見えないため、地域住民の理解が得にくい状況 ・ 水辺空間を有するファーム Pond、調整池等での活動が多く、地域住民等を含めた管理活動に対する安全対策が問題

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組(3)

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組の成果と問題点

アンケート調査の結果によると、畑地かんがい地区の多面的機能の発揮については、水田かんがい地区との比較においてみれば、良好な景観の形成や地下水涵養といった機能の発揮が低い傾向となっているものの、一定程度の評価はあり、特に防火用水・消流雪を含む地域用水機能ではほぼ同等の結果となった。

畑地かんがい地区における多面的機能の発揮に向けた取組の特徴としては、防火用水機能の発揮に向けた取組があげられ、防火用水機能が発揮されたと回答した地区のうち約6割の地区で地元消防団と施設の管理協定を結んでいる。

これは、畑地かんがい地区の主たる水路形式がパイプラインであることを生かした取組であると思料(パイプラインに消防ホースを接続させ、水圧を利用し放水することが可能)。

一方、畑地かんがい地区は

パイプライン形式が多く、水辺空間や施設が身近に見えないため、地域住民の管理活動参画への理解が得にくい

ファームポンド、調整池等での管理活動が多く安全面での対策が問題になることもあるなど、多面的機能の発揮に向けた取組を行う上での課題も生じている。

以上より、今後とも畑地かんがい地区の特徴を踏まえた取組を進めるとともに、今回の整理により明らかになった管理活動を行う上での問題については、これらの地区における多面的機能の発揮に向けた今後の取組の課題として留意していく必要がある。

(2) 後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析

後継者にあたる30代以下の若い方々が、農業水利施設に対しどのような認識を持っているのかについて、「地域住民を対象としたアンケート調査」を用いて分析する。

後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析(後継者世代と担い手世代との比較分析)(1)

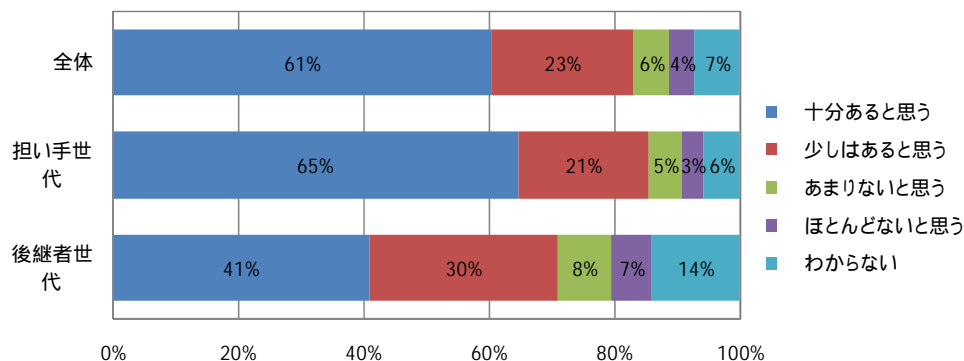
地域住民を対象としたアンケート調査について、年齢が30代以下の人(後継者世代)とそれ以外の人(担い手世代)に分類した場合の傾向を分析(回答:20,360人、後継者世代:3,114人、担い手世代:17,246人)

(1) 農業水利施設に対する認識、管理への意識の差について

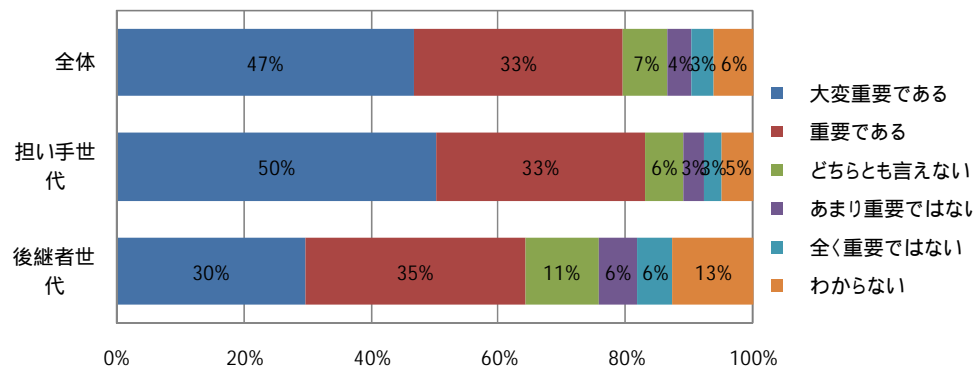
農業水利施設の有する多面的機能に対する認識、多面的機能発揮に係る農業水利施設の管理の重要性に対する認識は、担い手世代に比べ後継者世代で低い状況。

また、土地改良区が実施している行事・清掃活動への参加においても、同様の結果となった。

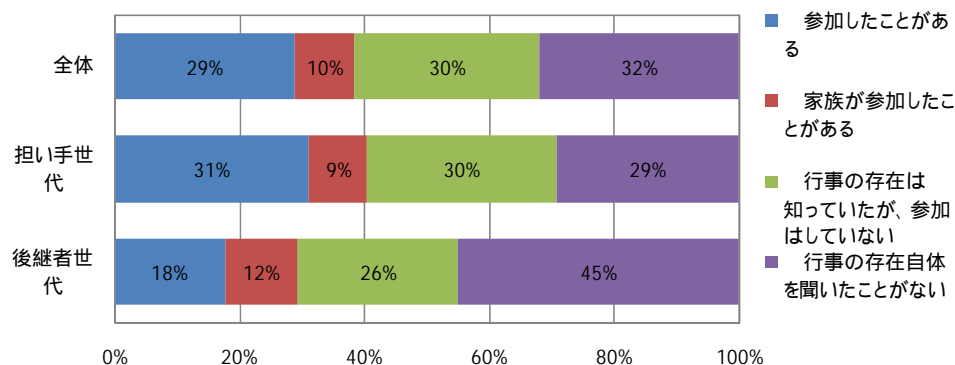
農業水利施設の有する多面的機能に対する認識(問1)



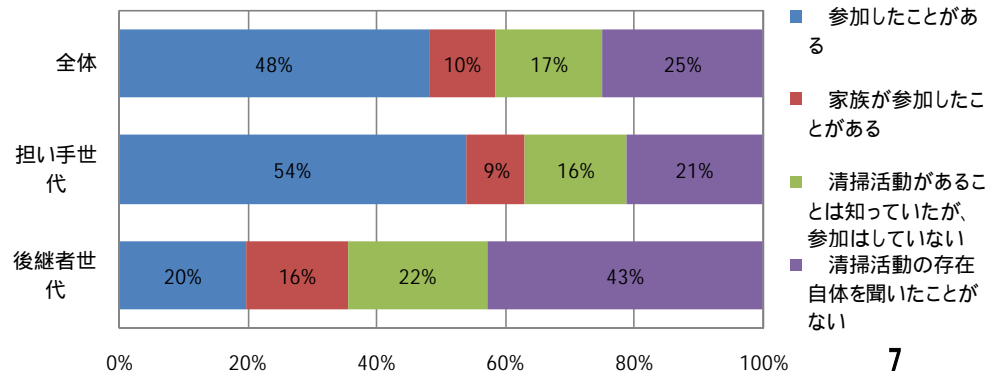
多面的機能発揮に係る農業水利施設の維持管理の重要性(問4)



土地改良区が実施している行事への参加経験の有無(問8)



土地改良区主催の清掃活動などに参加したことがあるか(問9)



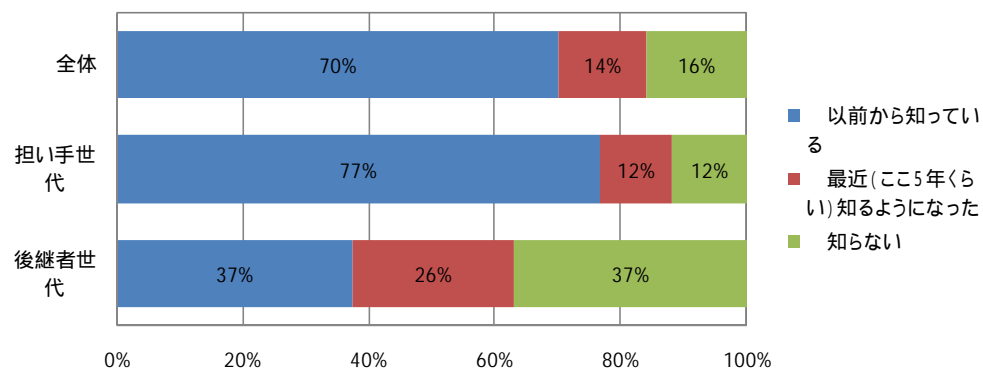
後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析(後継者世代と担い手世代との比較分析)(2)

(2) 農業水利施設に対する意識の変化について

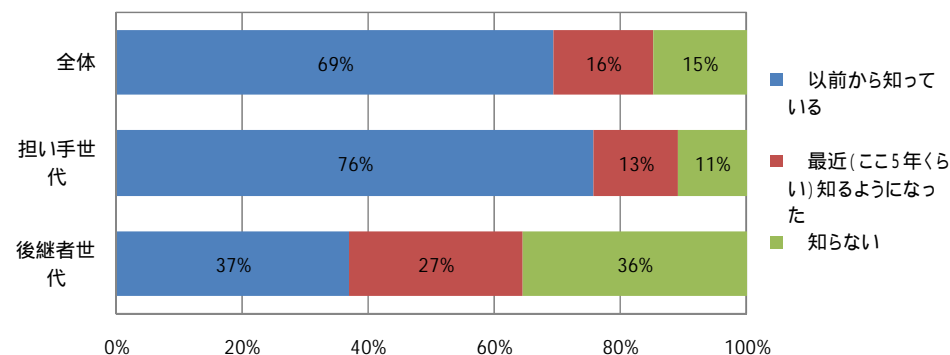
地域の農業用水、施設の維持管理に係る費負担及び土地改良区に対する認識は担い手世代に比べ後継者世代で低い状況。しかし、後継者世代の「最近(5年程度)知るようになった」とする回答の割合が大きい傾向がみられる。

これは、本事業(2期対策)などの取組を通じ、農業水利施設やその維持管理について、後継者世代に着実に浸透してきていることを示す表れだと思料。

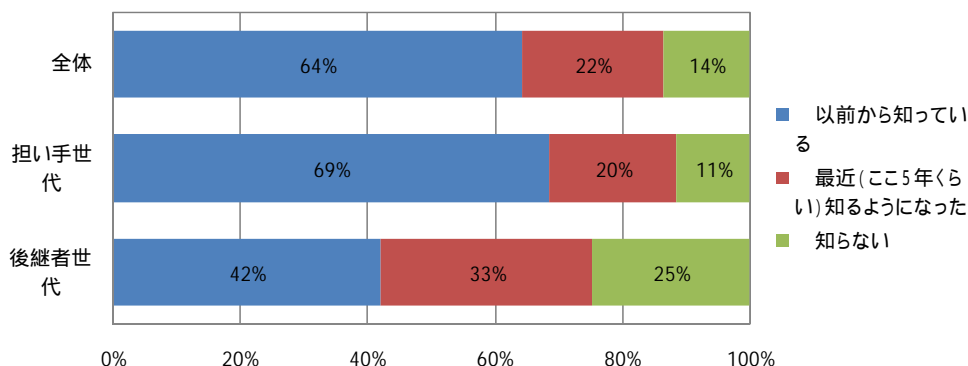
地域の農業水利施設が国(県)営事業で整備されたことに対する認識(問3)



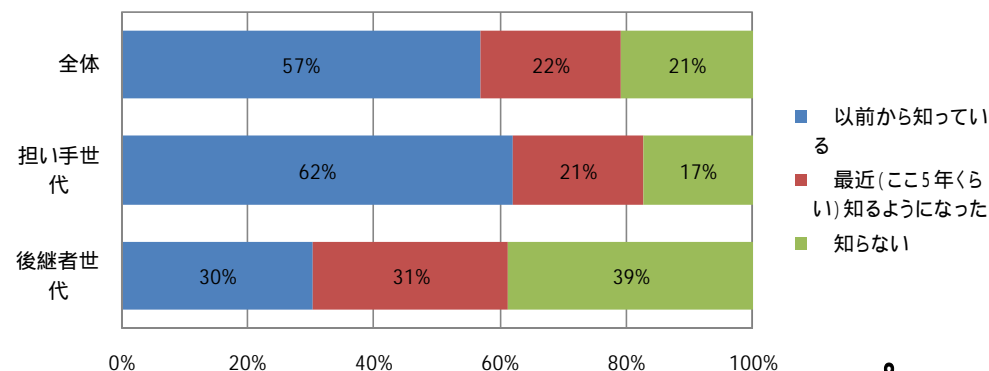
施設の維持管理費を農家が負担していることに対する認識(問5)



土地改良区という団体(名称)を知っているか(問6)



土地改良区が行う仕事の内容を知っているか(問7)



後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析(後継者世代を農業関連と非農業関連に分け分析)(1)

後継者世代を農業に関わりのある人(農業関連*)とそれ以外の人(非農業関連)に分類した場合の傾向を分析

(回答:3,114人、農業関連:1,137人、非農業関連:1,977人)

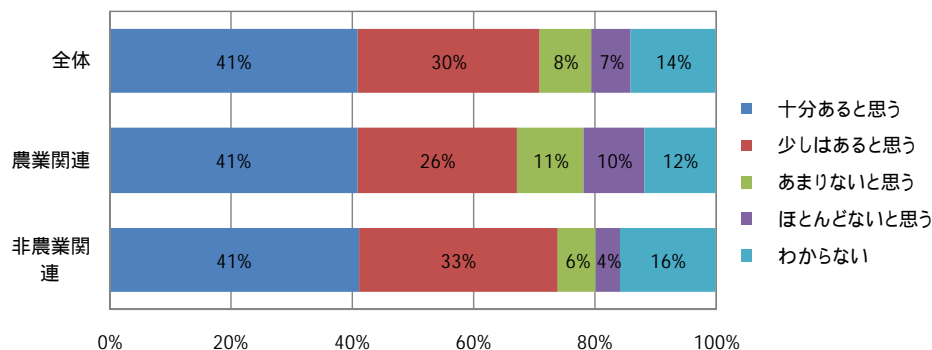
*「農業に従事している人」と「自ら耕作してはいないが農地を所有している人」

(1) 農業水利施設に対する認識、管理への意識の差について

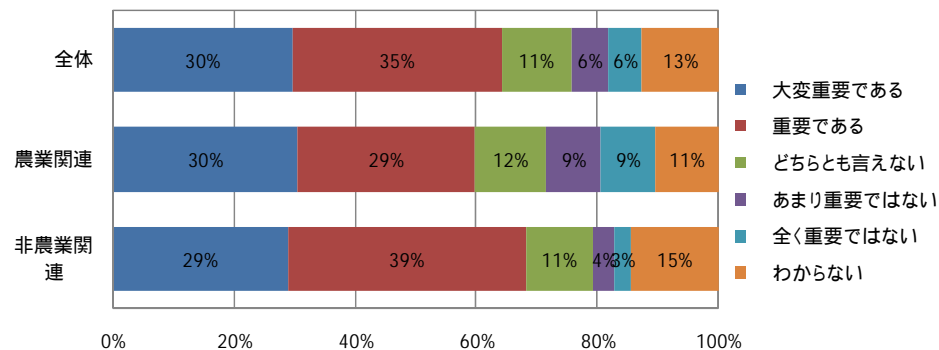
農業水利施設の有する多面的機能に対する認識、多面的機能発揮に係る農業水利施設の管理の重要性に対する認識は、非農業関連のほうが高い結果となった。

しかし、土地改良区が実施している行事・清掃活動への参加においては、農業関連に比べ非農業関連は低い状況であり、一層の活動への参画が期待される。

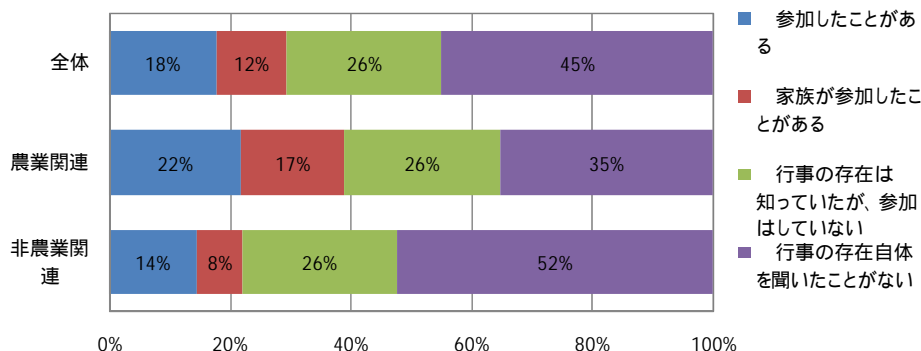
農業水利施設の有する多面的機能に対する認識(問1)



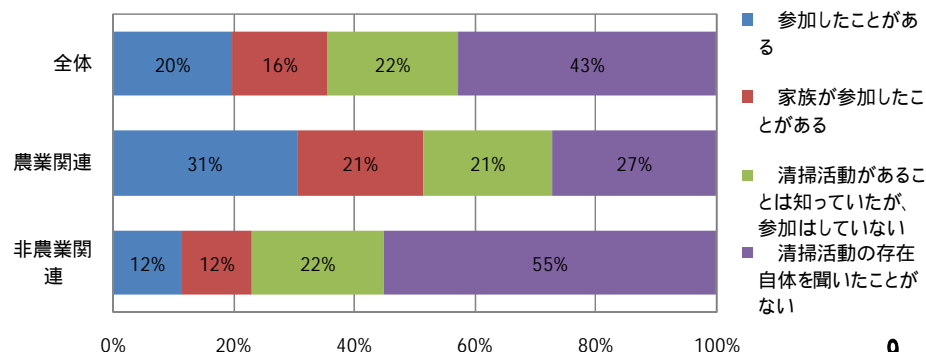
多面的機能発揮に係る農業水利施設の維持管理の重要性(問4)



土地改良区が実施している行事への参加経験の有無(問8)



土地改良区主催の清掃活動などに参加したことがあるか(問9)



後継者世代の農業水利施設に対する認識に関する分析(後継者世代を農業関連と非農業関連に分け分析)(2)

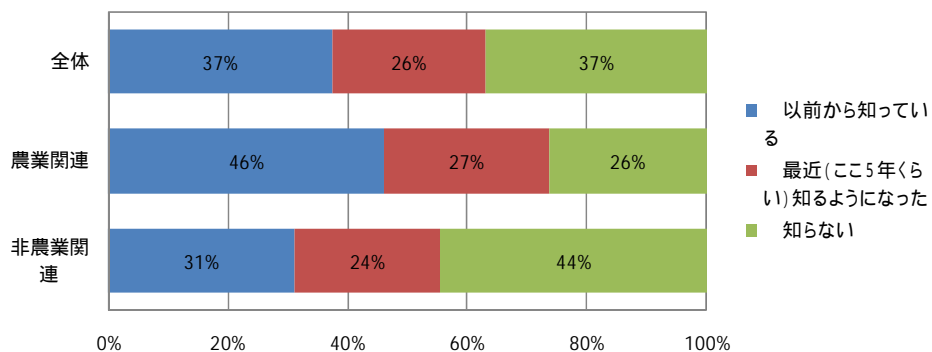
(2) 農業水利施設に対する意識の変化について

地域の農業用水施設の整備手法、施設の維持管理に係る費負担及び土地改良区に対する認識は農業関連に比べ非農業関連が低い状況。

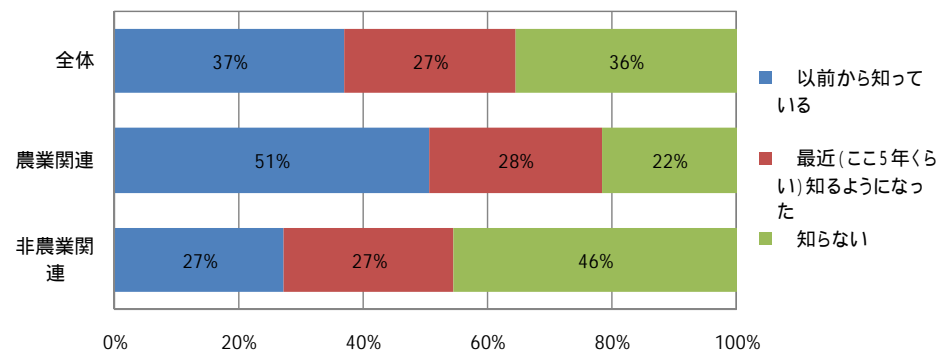
「最近(5年程度)知るようになった」とする回答の割合は、農業関連と非農業関連ともに約3割程度を占めている。

これは、本事業(2期対策)などの取組を通じ、農業水利施設やその維持管理について、後継者世代に着実に浸透してきていることを示す表れだと思料。

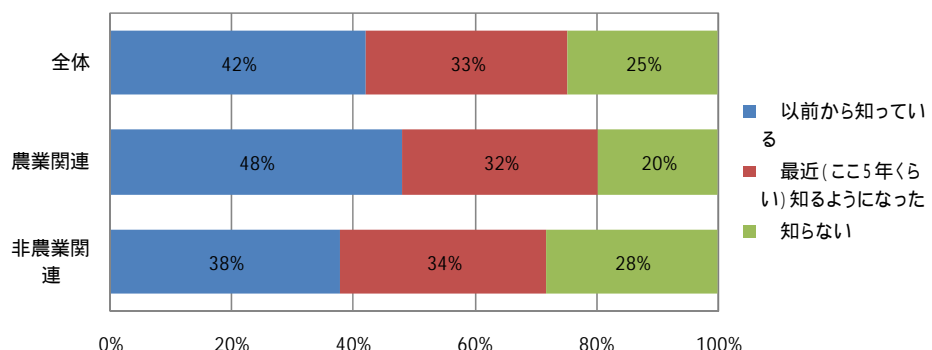
地域の農業水利施設が国(県)営事業で整備されたことに対する認識(問3)



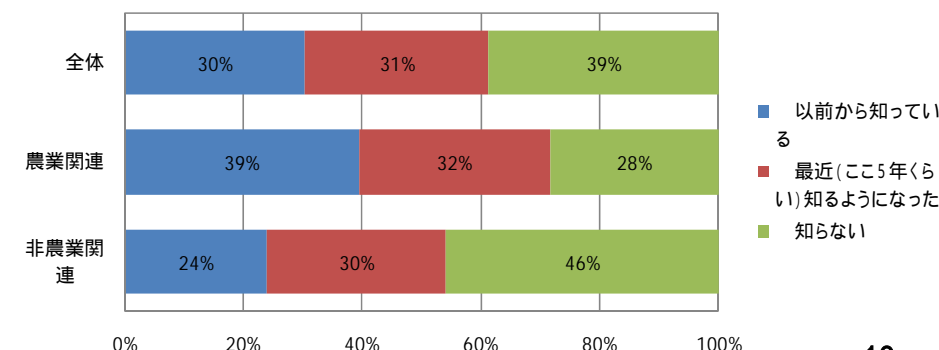
施設の維持管理費を農家が負担していることに対する認識(問5)



土地改良区という団体(名称)を知っているか(問6)



土地改良区が行う仕事の内容を知っているか(問7)



後継者世代の農業水利施設に対する傾向と問題点

後継者世代の農業水利施設に対する認識は、担い手世代と比べて相対的に低いものの、「最近(ここ5年くらいに)知るようになった」と回答する割合が大きい傾向がみられるなど、本事業を通じ、後継者世代に着実に浸透してきていることが伺える。

後継者世代を農業関連・非農業関連に分類したところ、多面的機能発揮に係る農業水利施設の維持管理の重要性に対する認識は、非農業関連の結果が高い結果となったものの、実際に土地改良区が実施している行事・清掃活動等への参加の経験は低い結果となった。

これらの結果から、後継者世代に対する啓発活動を積極的に行い、土地改良区が実施している行事・清掃活動等への参加を呼びかけることが、次代に向けた安定的な管理体制を構築していく上で重要な取組の一つであると考えられる。